令和7年3月19日

人吉市議会議長
宮原 将志 様

総務文教委員長
松村 太

中学校部活動の地域移行に関する提言書

平成30年3月文部科学省「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」において、「生徒に望ましいスポーツ環境を構築する観点に立ち、運動部活動がバランスのとれた心身の成長等を重視し、地域、学校、競技種目等に応じた多様な形で、最適に実施されることを目指して、学校と地域が協働・融合した形での地域におけるスポーツ環境整備を進める。」と示されており、現在本市においては、「人吉市中学校部活動地域移行検討会」の設置に至っている。

近年、本市においても深刻な少子化の進行により、持続的な部活動が厳しくなるほどの生徒数の減少が加速している。また生徒数減少は、各中学校の教職員の減少も伴い、競技経験のない教職員が部活動を指導せざるを得ない状況もあり、休日も含め多くの時間を運動部活動の指導に当てるなど、業務の偏向が増大している。これらは生徒のスポーツに親しむ機会の確保や、自主的・主体的な部活動への参加による責任感・連帯感の涵養と、自主性の育成という部活動の意義に支障をきたしかねない状況となっている。

少子化の中でも、地域において、生涯を通じて子供たちがスポーツを継続して親しむことができる機会をしっかりと確保していくこと。ひいては学校の働き方改革を推進し、学校教育の質の向上にも資すること。スポーツへの自発的な参加を通して「楽しさ」「喜び」を感じる。スポーツを通して、自己実現を達成し、活力を持って多くの仲間と強い絆を結ぶこと。これらを継続し、維持していくためにも、地域において部活動に代わる質の高い活動機会を確保できる十分な体制を整える取組を進め、確実に円滑な部活動地域移行を実施するため下記の事項について提言する。

提言1 地域スポーツ・文化活動の振興に資する取組とすること

・中学校生徒のスポーツや文化活動等の地域活動移行に限らず、地域で気軽にスポーツや文化活動ができる場所やプログラム・講座・指導者の確保など、環境整備が不十分である。単に中学校生徒の地域クラブへの移行という視点ではなく、地域住民にとっても、より良いスポーツ・文化活動環境となることを目指す必要がある。そのためには利用者のニーズに応じて複数の運動種目に取り組めるプログラムの提供や、指導者の確保など、スポーツ・文化活動を振興する契機としていく必要がある。こうした地域スポーツ・文化活動環境の構築により、生涯を通じた運動習慣作りが促進され、「住み続けたいまち ひとよし」の基盤となることを目指すこと。

提言2 参加者と活動内容の多様性の確保に努めること

・現在本市における学校部活動への参加率はとても高く、また学校部活動以外での活動も広く行われている。その活動内容は体力や技術の高い競技志向の活動や、スポーツや文化芸術そのものを楽しむことを目的としたものなど、生徒の志向や状況に応じた多様性が求められる。

特定の運動種目や文化活動を継続的に長期間専念する活動だけでなく、成長期を通して幅広いスポーツ・文化活動に親しむため、休日や長期休暇中などに開催される体験型活動や、レクリエーション、シーズン制の運動種目、障害の有無に関わらず、誰もが参加できる活動などの多様な機会を創出しつつ、近隣自治体等との広域的な連携にも柔軟に対応するなど、体験の格差の解消にも留意する必要がある。

提言3 自由で自主的な参加のための環境整備に努めること

・地域移行を受け入れる団体等の継続的な運営を支援するために、本市体育施設利用料の減免等を図り、保護者の経済的負担の軽減に努め、部活動からの移行の妨げとならないように努めること。

・各受け入れ団体の活動の活性化のため、本市の体育施設利活用促進に向けた各施策等の情報共有や、広域にまたがる活動への支援・助成等の拡充を図ること。

・活動の選択の妨げとならないために、現中学校区以外への部活動のための移動手手段の確保、または支援策について検討すること。